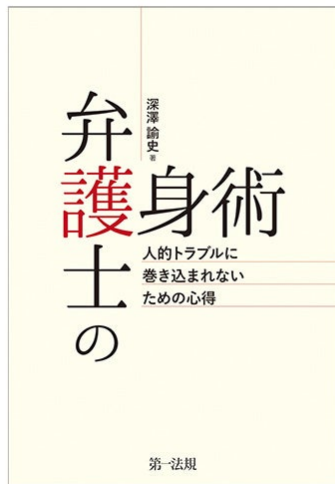


【新刊書籍】業務に潜む落とし穴に備える！『弁護士の護身術 ～人的トラブルに巻き込まれないための心得～』発刊！

弁護士が、安心・安全に仕事を続けるためのコツとは？

法律関連出版物、各種データベースを提供する第一法規株式会社（所在地：東京都港区、代表取締役社長：田中英弥）が、『弁護士の護身術～人的トラブルに巻き込まれないための心得～』を、2023年9月20日に発売しました。



商品紹介ページはこちら

https://www.daiichihoki.co.jp/store/products/detail/104755.html?utm_source=prtmes

amazonでの購入はこちら

<https://www.amazon.co.jp/dp/4474076265>

楽天での購入はこちら

<https://books.rakuten.co.jp/rb/17558581/>

「弁護士」という職業は、その特性上「人的トラブル」に遭遇する可能性が非常に高いと言えます。しかしながらその具体的な予防策や対応について、「詳しく知っている！」という弁護士の方は少ないのではないのでしょうか。

本書は、弁護士活動における人的トラブルへの"備え方"を解説。

対「依頼者」「事件の相手方」「第三者・メディア」に属性を分けて、人的トラブルへの「護身術」と心得を伝授します。

弁護士が本来の業務に集中して取り組むために、今実践できることは何か？

安心・安全に業務を続けていくために、ぜひご一読ください。

1 「護身」対象の広がり

弁護士が「護身」するべき対象は、依頼者や相手方だけではありません。むしろ最近では、第三者やメディアから身を守ることが重要です。

弁護士という職業にとって、依頼者や相手方がときに脅威になることは昔からあったことだと思います。しかし、最近では、第三者、メディアといった、その弁護士とはなんら利害関係がないはずの者から攻撃を受けることが増えています。これは、これまでになかった現象です。

本章では、なぜそういう攻撃が生じるのか、原因について考察するとともに、どういった振る舞いがリスクになるのかについて解説していきます。特に前半では、関係する弁護士も多いと思われるSNS一般について解説します。

後半はそれをベースに、SNSに限らないテレビ他一般メディアとの付き合い方や、リスクについて触れていきます。

2 弁護士は見られている

弁護士は、いつも見られています。といっても、普通は見かけからすぐに弁護士であるというわけではありません（バッジをつけていれば別ですが）。しかし、インターネット上では、特に営業や同業者との交流を目的にするのであれば、弁護士であることを明示して、実名を明らかにしていることが多いでしょう。

こういう実名の弁護士というのは、基本的に注目を集めます。そもそも弁護士自体、数が増えたといっても全人口から見ればごくわずかです。よく比較される医師と比べても、医師が30万人を優に超えるのに比べて弁護士人口は、まだ5万人に達していません。

154

ですから、珍しい存在として注目を集めやすい、自分が注目を集めるといえるのは、広報、発信力という観点からはプラスですが、自分の発信がもとで炎上するとか、攻撃を受けるとか、そういう点ではリスクであると認識する必要があります。

特に、本章図以降でみるように、弁護士は注目されているだけではなく、恨まれ、あるいは侮られています。

3 弁護士は恨まれている

弁護士は恨まれています。

もちろん、弁護士は紛争を扱い、片方の立場で味方するわけですから、敵からすれば恨まれます。

しかし、それだけではありません。敵つまり相手方以外の第三者からも、弁護士はひたすら恨みを買いやすく、しばしば逆恨みのターゲットになります。

弁護士からすれば、自分となんら接点のない人から敵意を向けられるのは、非常に困惑することです。ですが、次のような構造を理解しておけば、ある意味「自然な」ことなのかもしれません。

弁護士は紛争を取り扱いますが、弁護士に相談する人というのは、紛争の渦中の中、あるいは何か違法な状態の中にいて、損害を被っている人です。例えば、家庭内でDVをしている、元交際相手にストーカー行為をしている、会社で労働法を無視して従業員を働かせている、こういう立場の人からは、問題が起きているまでは基本的に相談を受けることはありません。

こういう立場の人々から相談を受けるとすれば、それは、違法行為をした後ではなくて、それについてなんらかの責任追及をされたという段階からです。

「残業代未払いで働かせているのですが、どうにかしてください」という

155

【本書の特長】

- 弁護士活動における人的トラブルへの”備え方”を解説！今から実践できる対応のコツをつかむ！

- 人的トラブルを対「依頼者」「事件の相手方」「第三者・メディア」の属性で分類し、状況・場面に別々に解説！

- 自らもトラブルを経験した弁護士が執筆。安心・安全に業務を続けるための教科書となる一冊！

【目次（抜粋）】

第1章 なぜ「護身」が必要か

- 1 弁護士とは何か？ そこから見えるリスク
- 2 弁護士の敵は相手方だけではない
- 3 実は紛争が好きな私たちの社会
- 4 「護身」は自分のためだけではない
- 5 「護身」ができれば、自分も依頼者も幸せになれる

第2章 依頼者からの「護身」

- 1 六法より難しい問題
- 2 「後ろから撃たれる」という話
- 3 依頼者は敵ではないが敵にはなり得る原因
- 4 依頼者からの「護身」は最終的には依頼者の利益になる
- 5 説明・報告・自分用メモを1つにまとめて「護身」する
- 6 「放置される」ことに備える
- 7 「放置された」ときの対応

- 8 相手方から放置されたとき等の動きが長期間ない場合の対応
- 9 依頼者が誤解しやすいポイントを契約書でカバーする
- 10 「しゃべりたい」依頼者に注意
- 11 依頼者になる前にこそ注意
- 12 問い合わせと「護身」
- 13 法律相談と「護身」
- 14 強い言葉は依頼者を失敗させ、弁護士を墮落させる
- 15 依頼者の親族、友達に注意
- 16 「時間」こそ依頼者との最強のコミュニケーションツール

第3章 相手方からの「護身」

- 1 相手方からはもちろん警戒すべし
- 2 プレッシャーからの恫喝に注意
- 3 あなたの内容証明郵便、他人に見せられますか？
- 4 文書、電話、面会の順番で
- 5 相手方本人訴訟と「護身」
- 6 相手方からの懲戒請求
- 7 弁護士依頼と本人訴訟におけるインターネット上の情報の影響の実情

第4章 第三者・メディアからの「護身」

- 1 「護身」対象の広がり
- 2 弁護士は見られている
- 3 弁護士は恨まれている
- 4 弁護士は侮られている
- 5 SNSでは誰かの失敗が大人気
- 6 「あなた」ではなくて「弁護士」が問題であるという話
- 7 SNSの危険テーマとその傾向
- 8 SNS等のインターネット上で攻撃を受けたとき
- 9 引き込もうとする人に注意
- 10 メディアからの「護身」：浮かれてはダメ
- 11 メディアからの「護身」：メディアを武器にするのは特に慎重に

【商品概要】

『弁護士の護身術 ～人的トラブルに巻き込まれないための心得～』

[著] 深澤 諭史

定価：3,300円(本体：3,000円＋税10%)

頁数：208頁

版型：A5判

商品紹介ページはこちら

https://www.daiichihoki.co.jp/store/products/detail/104755.html?utm_source=prtimes

amazonでの購入はこちら

<https://www.amazon.co.jp/dp/4474076265>

楽天での購入はこちら

<https://books.rakuten.co.jp/rb/17558581/>

発売元：第一法規株式会社

<https://www.daiichihoki.co.jp>

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000592.000059164.html>

第一法規株式会社のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/59164

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

第一法規株式会社

販売促進第一部

lawyer_support@daiichihoki.com